

2016年8月6日
法政大学市ヶ谷キャンパス
日本言語技術教育学会
第26回東京大会
アンケート

- 注1 参加者138人、アンケート43枚。
1～43の番号をつけ項目ごとに表示
しました。
- 注2 表記は明らかな誤字を修正した他
は、記述通り。

【基調提案】(会長：大内善一)

- 1 言語技術のとらえ方を文学的文章と論理的
文章の2面から具体的に説明していただけたの
でよく分かった。神田支部の指導集のことや北
海道支部の学習用語などについて触れていただ
き有難かったです。
- 2 これからの本学会の方向性をお示しただ
きました。
- 3 日本言語技術教育学会の考え方がよく分か
りました。
- 4 言語技術を三つの視点で分け、考えていく
ことはとても分かりやすかったです。何気なく
行っていたことには、それぞれの意味があるこ
とを改めて考えさせられました。
- 5 内容が多かったためか早めに開始してい
たが時間を守って提示することも技術である。次
は定刻に始めていただきたい。
- 6 「要約の技術」自分にはなく、論文を書く
のに困っています。いろいろな手法・研究され
ていてすばらしい。
- 7 言語技術を三層に分けたことで分かりやす
くなった。混乱がなくなった。
- 8 言語技術の重要性を改めて学ぶことが出来
ました。
- 9 途中からお話を伺ったのですが、言語技術
の中に「学習用語」が入っていたのがとてもよ
かったと思います。国語科全体を通じてつけ
たい言語技術の中に入れていくことがとても重
要だと思いました。言語技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲと具体
的に明示されていてとても分かりやすかった
です。
- 10 本大会において「言語技術」の概念規定
がなされたことは大変よいことであった。「言
語技術」の三層については初めて参加する人にも

本学会で明らかにしたい観点がよく分かるもの
であった。ただ本学会で一番焦点を当てたいの
は三層の中の「Ⅱ」であると思う。

11 初めて参加させていただきました。どんな
学会かなと思いながら参加させてもらいま
したが、よくわかる提案でした。

12 言語技術の三類型がよくわかりました。

13 言語技術①・③は説明によってよく分か
った。②は、具体例を聞いてもよく分からな
いところが残ってしまった。紀要を詳しく読
みたいと思う。

14 簡潔でよかったです。提案授業とこれ
からの学会の方向性などをもう少し盛りこん
でいただいても。

15 最近、アクティブラーニングばかりで
すが、根っこにあるものを忘れてはいけな
いと再認識しました。

16 言語技術を三つの視点から考えるとわ
かりやすうと感じた。今日の大会でどうい
うことを考えていけばよいかがよく分か
った。

17 「われわれ教師と児童の言葉づかいの
精度を高める」という言語技術のとらえ
方、大変参考になった。

18 プレゼンテーションシートが分かり
やすかった。

19 「言語技術」について分かりやすい
説明だった。納得出来た。

20 教員課程企画特別部会、論理整理等
にどう生かされていくのかをお示しただ
けだとありがたかったです。

21 会長自身の定義について話を聞くこ
とができて良かった。「定型化・マニ
ュアル化・単純化それ自体を目的とする
ものではない」という考えに共感するこ
とができた。

22 パワーポイントで示されたことは
わかりやすかった。言語技術の定義の
違いや主張が明らかになるように、
10分×2名～3名の基調にしても
よいかと思われた。少し長かったと
感じた。

23 パワーポイントでの説明、分か
りやすかったです。

24 パワーポイントを使ってのご提案
でしたが、時間が長すぎ情報も多すぎ
ると感じました。もう少し短く5分
くらいで提案された方がいいと思
いました。

25 「言語技術」の定義やⅠ・Ⅱ・Ⅲ
の分類がとてもわかりやすかった
です。

26 「言語技術」とは何か、という
根本について

て知ることができ良かった。

27 「言語技術の使用者」が三者いる、それらに必要なことが何とか分かったような木がしました。レジュメ（パワーポイントで使った）、ずっと使えそうな気がします。言語技術の構造がわかりました。

28 今まで聞いた基調提案の中で最も良い基調提案でした。短く分かりやすく、しかも具体的事例が入っていた所が特に素晴らしかったです。また、先生がパワーポイントに初めて挑戦したという話も「教師は常に新しいモノにも挑戦しなければならない」という姿勢が見えていて良かったです。

29 今まででは各人各様の言語技術という考えのよとの授業・討議であった。今回から会長として「言語技術」についての提案があったことは画期的であった。その後の授業討議ではその提案（特にⅠ・Ⅱ）に基づき深められていった。新しい会の幕開けと言えます。やっとベクトルが示されたのである。

30 「言語技術」の提案はよいとしても、それは「国語」だけに限定されるのだろうか？ もっと広い意味での「言語技術」にも注目すべきではなからうか。

31 「言語技術」を作者・読者・授業者として分けたのはおもしろいと思いました。しかし、Ⅲの技術がいわゆる授業の技術・対応とどう違うのか、Ⅰの言語技術の表す言葉が抽象的過ぎるのではという印象を持ちました。もっと整理していくとこの問題も解決すると思いました。

32 ゆっくりと更に例をあげてお話を伺いたかったところです。

37 よい。

【第一部 論理的文章教材「天気を予想する」の模擬授業とその検討】

（1）授業Ⅰ（授業者：富樫いずみ）

1 要点・要約の学習用語を教えたのは良かった。しかし、各段落の要点・要約の方法を教えていなかった。一人を指名して「みなさんも同じように書けたと思います。」で流してしまうと、書けない子が正しい要点をメモ出来ないままになってしまう。更に、正しいか分からない要点をもとに要約として再話させても評価が出来ないのでないでしょうか。メモは縦書きにした方が混乱が少ない。

2 模擬授業、行う教員も受講する児童役の先

生方にとっても難しさを感じた。その中で基調提案Ⅱ・Ⅲに関わる工夫がちりばめられていた。表現に向かう扱い方ということで納得した。

3 予め、文章の構成を提示するという方法がわかった。ペアで話し合うこともいいと思いました。学習者が先生でなく児童の場合、R1や2の児童もこれができるのかなと思いました。

4 メモを取りながら学習することはよくあるが、メモの仕方をうまく教えられずに困っていたのでとても参考になりました。

5 指導案にある通りの音読や要約のさせ方の技術を期待していたので、省略してしまい残念だった。45分間のうちの20分間で様々な制限があると思うが5年生に行うようにして頂きたかった。本時案を4時間作成するのは大変な労力である。有難い資料である。

6 メモをとる練習はよかったが、「シート」は文章構成を示している（理解できる）工夫がほしい。

7 ①「書くことを前提として読む」ことに賛成です。②「問い—答え」の形を活用したという点において再話は有効だと思いました。

8 メモ書きでの要点のピックアップ、会話での要約は活動的でとても参考になりました。

9 マルチプランシートを使っでの授業でした。これを使ってメモの取り方を指導し積み重ねていくことで書く活動を充実できるなあということを改めて感じました。マルチプランシートを使っでのメモの取り方を是非指導していきたいと思います。

10 「プランくん」を使っでのメモ・要約の指導はおもしろい実践であると思うが、本時の授業では使わせ方（書く内容の例示、書く際の指示等）をさらに工夫できるとよかった。また、「プランくん」を使って文章構成を捉えさせる手順についても示されるとよかった。

11 学生さんが児童役だったので、先生の期待する答がすぐ返ってきたので授業がずっと流れたが、現場ではこうはいかない。そんな時に先生がどのような支援をされるのかが見たいところだった。

12 始めにゴール（ペアでメモをもとに話し合うこと）を示した方が目的意識をもって取り組みます。ワークシート①～②の数は段落の数字と混同するのでない方がいいです。「学習意欲の喚起」とありますが、どのあたりにそれがあつたのでしょうか？ もしも同じような導

入を私のクラスで行った場合、一部の子は熱中（集中）できずに手いたずらを始めてしまうかもしれません。要約の趣意説明はされておられたので、いきなり活動に入ってもよかったのではないのでしょうか。先生の説明（一問一答）が多かったのでペアトークなど活動を入れると学習内容が深まると思いました。

13 模擬授業でなく講義型になっている。発問の意図が分からない。要約の説明を全部先生がした後にペアトークを入れる意味は何か？ 思考が活性化するよりも熱量が下がっている。何のために読むのか、なぜ家の人に話すのか全てに必然性がない。

14 説明しながらの授業、複数の提案ねらいがあり大変だったかと思えます。もう少し、生徒役の先生方とのかかわり、声が聞けると良かったです。

15 メモの使用は中位、下位の児童にとってわかりやすい授業を構想できると思いました。

16 要約文を書くためにメモを取るというのがよいと思った。ただし、どのように書けばいいのかよくわからなかった。児童役の先生方も迷いはあっただろう。隣同士で話し合う活動は授業を充実させると思う。

17 「プランくん」の使い方、大変参考になった。個人的には「プランくん」は使いやすい教材だと思う。

18 要点、要約の仕方をもう少し具体的に知れたかったです。

19 メモシートを使ってどの子も要約できるように工夫がしてあってよかった。

20 要約するという視点での授業が2本でしたので、別視点での授業提案も見えたかったです。

21 メモを活用することによって要約するだけでなく、文章の構造を理解するきっかけになるところが新しい方法であり視野が広がった。自分なりにアレンジしてみて、担任する学級に合わせながら2学期より導入してみたいと思った。

22 ①発問がよくわからなかった。②メモは構成・構造理解には簡明ではないと感じた。③要約メモの言語技術をねらっていることは理解できた。④再話の評価がわからなかった。⑤音読が欲しかった。⑥メモは構造を明らかにできない。表が優れていることがわかり学ぶことができた。

23 読む一書くが結びついた授業で内容がとても分かりやすかったです。自分の声で一度要約

を読んでから書くと、自分の考えが整理できました。ありがとうございます。

24 「マルチプランシートで、抽象と具体がはっきりさせることができる」との提案で、授業の中に採り入れて自分なりに工夫を加えて活用してみたいと感じました。

25 要約文を完成させるまでの過程が短時間ながらよく分かりました。

26 「要約をお家の人に話す」という目的がはっきりしていて良かった。解1、2に関して実態によっては難しいと感じた。

27 何となく「やらされている感」の強い授業だった。あまり自ら考えたい！とか、知りたい！とかという気持ちになれない。発問より指示が多いからかなあと思った。

28 要点や要約といった用語の教え方が上手だなあと思いました。また、要約するだけでなく、「お家の人へ話してみよう」という形で発信する活動があったので良かったです。ありがとうございました。

29 お二人とも「学習用語」を中心として、しかも部分的読解に偏っているもので残念。二人やるなら考えが異なるものでやるべきであろう。計画の段階での配慮を求める。授業Ⅱでも言えることだが、学校現場の先生方は「学習指導要領」に示された「指導事項」を指導しようと授業を展開している。四つとも授業者が自分勝手に目標を立てているが、これでは実際に役に立たない。「指導事項」を各自の理論で説明してもらえないと使えないのである。

30 科学の説明文では図表はつきものである。読み方、文章構成、要約などはもちろん重要であるが図表が本文中でわざわざ指示されているのだからそれを無視しては論理構成や根拠の適切性は理解できない。評価は無理だとしても国語といえども何故図表があるのかは考えさせるべきであろう。

31 何か作業をさせられている感じがしました。メモ作業ありきで淡々と流れていって説明も長くよくわからなかったのが残念でした。

32 メモの技法を指導する場面を学校現場では作り出し辛いので大変ありがたい提案でした。しかし、様式は今回は「プランくん」ではなくてもよいかと思いました。（積み上げがない状況なので）

34 要点を言葉でとらえメモで取り出して、ペアになって要約したものを再話するというのは、とてもよいことだと思いました。

35 メモの指導は重要だと思います。

36 要点、要約の習得は児童にとってかなりハードルの高いものとする。「要点・要約」という用語は教えなければならないが、ここで重要なのは、要点の見つけ方、要約の方法ではないだろうか。児童にも分かりやすい要約の方法はないだろうか。児童にも分かりやすい要約の仕方の技術の習得方法が授業(説明されている)で見られるとよかった。

37 もう少し丁寧な指導が必要だと思いました。教材文は分かりやすくして良いです。

43 「言語技術」という学会なのに、先生の使う言語に技術が感じられず残念だった。「要点を書きましょう」という指示があったが、子どもには何をしたらよいのか、もっと段階を追った指導が(自分のクラスなら)必要に感じた。プランシートを使ってメモの指導をするという提案は興味深くよい手立てだと思った。先生の日頃の授業で指導されるように示していただけると良かったと思う。(柳谷先生のお話を聞いてそう感じました。)

(2) 授業Ⅱ(授業者:野口芳宏)

1 「要約・なるべく意味を変えずに短くすること」全体で要約指導があったので、何を学習していたかが分かった。子供達を学習に集中させる教師の言語技術がよく見えて勉強になった。ただ、文体加工の技術は、どうやればよいのか、まだよく分からなかった。子供が抽象度の高い言葉に言い換えられない場合は、教えるのか?子供の言葉や教科書の言葉でまとめた方がよいのでは?

2 20分の中で音読の仕方、発言の仕方、挙手の仕方、および要約のポイント、基調提案Ⅱ・Ⅲに関わる提案が多く、学ぶことができた。提案授業の検討で要約への考え方を伺えてスッキリした。

3 提案の知識注入とか、先生の伝えたいことはよく分かりました。発問や指示が細かくて、全員参加できていました。全体を通して、何が目標だったのかがよく分かりませんでした。(指導案を見ないとわからなくなる。)

4 要約の指導はできる子とそうでない子とがはっきりわかれてしまいます。まして要約しきれないで書いている子どもも多いのでとても参考になりました。

5 指導案にある学習用語に全部触れると思っていたが、全てではなかった。逆に「概叙—細

叙」という新しい用語が出てきていた。

6 「文体加工」の技術・ポイントは明確で分かりやすかった。実際に論文を書いている立場なので自らの「造語」に苦心している。ただ、意味を表わせればよいだけでなく、適切か否か迷うことが多い。

7 ①指導技術が見える授業であった。ありがとうございました。

8 いかにか端的にするかを極端に短く要約することで要約する力の例を子どもに示せたと思いました。

9 生徒役の方との温かいやりとりが見られた授業でした。野口先生がよく仰る向上的変容がよく表れていたと思います。文体加工、語彙を短くするというところが見事だなと思いました。

10 言語技術の三層のⅢに関わる技術がよくわかる授業であった。思い切って短くパッと表すことのできる力を子ども達につけさせることは、子どもの日常の言語活動に欠かせないものであった。この力を低学年から身に付け(つみ上げ)させていく方法(手順)や系統性が明らかになるとよい。

11 「問い—答え」「要約について」授業者の思いが強すぎ、子どもの思いをもっと大切にしたいと感じた。

12 いきなり指名、指示があり引き込まれました。ユーモアも入りテンポがいい。学習内容(教科内容)を教えると共に学習規律も教えていてとてもいいと思いました。時間が進むにつれて意欲が喚起されていました。

13 問いかける表情、発問の後の間など、先生が作る雰囲気ですばらしかった。しかし両授業とも教え込みの授業。もっと児童が楽しくなる工夫が見たかった。

14 スタンス、知識、学習用語の注入ということは明確でよかったと思います。ただ、“教室で学ぶ”生徒同士のかかわり、学び合いについてが見えるとありがたかったです。

15 野口先生の授業はいつも“教師の技”というものを考えさせられます。いくつになっても教師の力量を高めていかなければならないと再認識させられます。

16 言葉を短く言わせる点、発問が焦点化されていて本文をしっかりと見なければならぬ状況を作っている点が素晴らしいと思いました。生徒役の先生方がずっと野口先生の授業に引き込まれていました。勉強になりました。

17 いつもながら授業の「受けの技術」に関心させられた。あんな風に余裕をもって楽しく授業を行いたいものだ。

19 読み方について学習できた。

20 要約するという視点での授業が二本立てでしたので、別視点での授業提案も見なかったです。

21 指導内容が明確であり、児童にとって何をすれば良いのか分かりやすい授業であると感じた。また、児童にしっかりと知識を定着させる指示や、児童と通じ合いながら授業を進めるために必要な声かけなど、勉強になった。

22 ①学習用語の理解はできた。②発問が明確。しかし、文の役割、問答と要約が雑然としていた。③授業運営力は名人芸。若手にはない味わい。④4段落と5段落で段落相互の関係を明らかにしようとする言語技術は分かった。

24 手の挙げさせ方、短い言葉で言わせる等、授業を進める上で参考になる指導技術がたくさんありました。「文体加工」という新しい技術について、今後も考えてみたいと思いました。

25 指示や発問について勉強するために、ぜひ詳細な指導案を公開していただきたいです。

26 スモールステップの説明が良かった。内容だけでなく授業態度等についても話されていたので良かった。時間が掛かりすぎてしまうのではないかと感じた。

27 20分中で習得できる知識量、思考する量がよく確保できていると思う。この後の授業の山場となる所はどこになるのだろうか。(このままの調子、流し方で45分行うのだろうか。

28 野口先生さすがでしたね。○か×か、AかBか、AとBか? 単純明快にして文章の要を読ませていくのが爽快でした!!。また、初めて出会った人とのたった20分をいかに実りあるものとするか、全力を注がれる姿、そして相手に合わせて授業していく姿、まさに本日も授業の名人!!ありがとうございました。来て良かったです。

29 お二人とも「学習用語」を中心としていて、しかも部分的読解に偏っていて残念。(以下、授業Iと同じ文言なので省略)。

30 課題文(教材)の中に根拠を見出すのであれば、「問い」に対しては、対応しないが「筆者の考え」というのは適切な回答ではなかろうか。「問い」は一般的な問いだとすれば、それに対して一科学者としての「答え」を述べている。(他の科学者の「考え」もありうるという

前提がある。授業者は科学者のものの言い方がわかっていない。科学者は一般化には慎重である。)

31 学習者への対応が素晴らしく少し難解な内容でも理解させてしまう迫力がありません。

32 文体加工の指導だけでなく、他の指導も一流で授業を受けている方にも楽しそうでした。向上的変容が見て取れる大変分かり易い提案でした。

34 何を教えたいのかをしっかりともち、自分の個性を生かして目の前の子どもたちの実態に合わせて指導することが大切だと改めて思いました。

35 さすがです。名人芸です。憧れます。鶴田先生のご指摘を謙虚に受けとめられユーモアで切り返すあたりは見習いたいです。

36 授業者の意図する答えと違った答えが児童から出た場合の対応が厳しく発表する意欲がそがれてしまうのではと心配した。ここでは、図表と文章を照らし合わせた指導もあって欲しかった。

37 5年生を意識した模擬授業をしてほしかったです。多くの先生が使える見本にしてほしいです。

43 短く(けずって)ポイントを示されわかりやすかった。一人の音読のほめ方は参考になった。全体で音読してほめ、高める技法を見たかった。

(3) 提案授業の検討

(司会：光野公司郎、授業者：富樫いずみ・野口芳宏、登壇者：今井東・大貫真弘・國府田祐子・篠原京子・高橋秀一・柳谷直明)

1 「要点を見つける力を具体的にどのような言葉(教師の指導技術・言語技術)で児童に身に付けさせるのか」が、しっかり提案でき、また、どちらが分かりやすいか検討できると良かった。(神田支部か茨城支部、または他の方法をとっている方から独り出ると比べやすかったのではないのでしょうか。)富樫先生は「要約は5年生から」とおっしゃっていましたが、4年生からではないか? 更には1年生から少しずつやっているのでは? 「全体をとらえてから、部分を学べば関係性がよくわかる。」(光野先生◎)。国語の授業での「資料」の扱い方について、触れられたのが良かった。大貫先生の最後の意見に納得。

2 ぜひ、基調提案I II IIIに関わってどうなの

かを明確に積み上げていく検討であるべき。メモのこと、教材文のもつ言語技術を検討するのは良いが、教材の是非に時間をたくさん割くのはあまりにももったいない。持論を話す場所でもあります。新たな基調提案に沿った具体的な検討をお願いしたい。

3 縦書き、横書きはどちらでもよいと思います。検討は細部やご自身の主張ではなく、提案に対してコメントを言ってほしいと思います。自分の考えを書かせるというのは私も大切だと思います。要約だけで終わるのは……。

4 短い時間の中、いろいろな視点での意見が出たのでとても良かったです。

8 有意義な時間でした。

9 要約か、引用かということが話題になりました。どちらの方がレベルが高いのかなということを考えました。引用から要約の方がやりやすいのかな？と考えました。また、検討の中で折角よいことを仰っていても早口ではなかなか伝わらないと思うこともありました。定められた時間の中で、うまく伝えるということも言語技術の一つなのかなと思います。

11 様々な先生の意見が、時間きっちり！に聞けてよかった。論理的文章の指導について、とても参考になった。

12 左の先生から順ではなく自由に発言頂いた方がよいと思いました。その方が議論が深まったと思います。登壇者の方が授業そのものではなく教材分析についての発言が多かったです。これは勉強になりました。単元の中の一時間として、模擬授業そのものの教育技術としてどのような観点で検討していくのか明確にするといよいと思います。

13 言語技術Ⅰ～Ⅲに分けて授業検討をした方が分かりやすかった。提案授業にも関わらず、富樫先生の授業で野口先生が考案したシートを使うことに違和感を感じた。多くの登壇者の方が代案を出して意見を述べられていることが良かった。教材の価値と考えるべき内容を明確にもって指導することが大切だと感じた。

14 少し登壇者が多すぎて、もう少し授業についての深い検討・討論が聞きたかったです。何をもち「端的」とするのか、要約、メモのコツというか基準・目安といったところがわかりにくかったのが残念でした。「要約」も何のために行うのか、「学習者の必然性」が見えてこなかったことも残念でした。

15 現場で子どもに対して毎日授業をしている

人間にとって、大学の先生のお考えを聞くことも大切だと思いますが、”提案授業の検討”であったのだから、今いる子どもに臨機応変にねらいの達成にむけて子どもの学力を上げていく教師の技術にも見所があったと思います。今日参加した現場の人間は“いろいろな考え方”があるが、最後は子どもの学力を高めるには、目の前にいる子どもにとってどれがベストか自分で考えていかねばならない。そのために引き出しをたくさん持ちたいということを考えてと思います。余談ですが、言いたいことばかり言っは、聞いている人は気持ちよくないです。相手を尊重する話し方も身に付けるのが大切とも思いました。

16 発言に制限時間があり、正直もう少し詳しく話を聞きたいと思うこともあった。鋭い意見が多く参考になったが、意見が出た時点で授業者に話を聞きたかった。それでもとても深まりのあるいい検討会だった。

17 「型にとらわれない授業」。肝に銘じておきたい言葉である。

19 検討があるため授業者の意図等がはっきりしてよかった。

20 授業者に質疑するパターンが多く、登壇者の先生方から具体的な指導事例をお示し頂けるとありがたかったです。

21 様々な主張が飛び交い、自分の考え方の枠組みを広げることができた。参考になった。他方、一人一人が順番に紀要に書いたことを中心に発表し合うのではなく、一つのテーマについて話をつながりながら討論していく形があっても良いのではないかと思う。

22 篠原氏のご意見が具体的で大変よく理解できた。要約の技術について、明確にできるような司会運営が必要であった。例えば、「理解を目的とする要約」「書くことを目的とする要約」など議論が深まるとよかった。検討内容がちぐはぐであった。パネリストが自分の主張を表現することを強く打ち出すため、検討議論が集中せず散漫になるのが残念。まさに言語技術です。あくまでも模擬授業を材料として議論すべきである。司会が最後に自分の意見でしめくくるのはつつしむべきである。

24 時間がきっちり守られていて、進行がよいと思いました。

25 論理的文章の指導の中で「部分」と「全体」を結び付けることの難しさや大切さを再認識させられました。

26 光野先生が「全体→部分という授業の流れが好ましい」というお話をされていたが、子どもの音読量と理解力ではいきなり全体を見渡すという活動ができないということはしばしばある。いかにすれば、「全体→部分」読解ができるのか、是非教えて頂きたい。

27 文章構成大切に、ということに賛成。各段落の見出しをつけるのはよいと思った。

28 時間を区切って密度濃くてとても良かったです。時間を区切ることで先生方も余計な事を削ぎ落として話すことになる事がわかりました。また、登壇なさっている先生方の見事な話し方、ちゃんと大切な事だけを話しておられ、まさに言語技術に長けていらっしゃるって勉強になりました。

29 登壇6名+司会1名で70分では、時間的に厳しい。しかしながら、その中でも明確にしたやりとりの中、フロアも交えて言語技術についての認識が深まっていった。やはり、教材は「当該学年の典型としての教材」(思考レベル、論理レベル)ものと「その教材の特殊性」(表現レベル、レトリックや効果レベル)を明確に分けるということが大切である。

30 物の言い方がわかっていない。科学者は一般化には慎重である。登壇者のお一人の指摘(図表の整合性、本文との関係)は重要である。これは国語教材としては見過ごされがちだが、広告の「言語表現技術」とかは、さらに深く考える余地を残していることを示している。小学生は無理だとしても、中学・高校・大学生にとっても、その意味では「よい教材」である。(PISA型の学力を念頭においている。)

31 授業の展開の方に話の流れが向かっていて、言語技術についての内容はあまり深まらなかつたと思いました。

32 司会者をご自分で言われるように、提案以外の話題に司会者が持って行ってしまい、議論が深まらないので、是非司会の選定をご一考下さい。登壇者が9人では多すぎます。精選下さい。

35 マイクが非常に聴き取りにくく、準備に点検を要すると思います。20分の授業の中で「全体の構成」を連呼されるのはいかがなものでしょうか。テーマを具現化するのには「無理」だと思います。

36 本校(我が校)では、「天気を予想する」の指導では、図表を活用して説明文を書くことに発展させることを目標に授業を行った。この

指導目標で授業を行った場合、どのような展開になるのか、是非知りたかった。

37 どんどん突っ込んで聞いてほしいです。

40 非会員で大学で英語教員の立場で参加致しました。大貫先生のご提案がすばらしかったと思います。大貫先生のご提案にもっと真剣に耳を傾けてこそ貴学会のレベルがあがるのではと拝察します。教育の目指すべきクリティカルシンキングがこのような視点に凝縮されているからです。

43 全体で音読したり、文章全体の構成を学習させるのが大事なのだと、検討を聞いて感じた。授業ⅠもⅡも、部分的なところに着目させて、読ませる授業だったのだということがわかった。自分では、部分全体も両方必要なのだと思っているが、前に出ている先生達の何人かが話されていた「書くことにつなげる」授業が、今後は大事なのだと、勉強になった。

【第二部 文学教材「ごんぎつね」の模擬授業とその検討】

(1) 授業Ⅲ(授業者:岩下修)

1 「10日ほどたって」いつから? と確認する発問は前の場面とのつながりや時間の経過などを考える上で良問だった。「葬式だ」の根拠を描写から数を五つと限定して探させたのは良かった。ただ、「おはぐろ」「かみすき」からだけでは、葬式とは限定できず、冠婚葬祭のどれかだということをおさえたい。「〇〇〇ぎつね」の中で本文と照合して適していないものを取り除く学習活動が必要だと思う。

2 教師の声の大きさへの配慮、読む速さ、読み込みの焦点化、子どもが考えるポイントの焦点化、ネーミングをする提案がⅠⅡⅢの基調提案と重なり学ぶことが多い授業だった。「人物像の見える化」のご提案ありがとうございます。

3 人物像の迫り方についての方法の一つが分かった。どの場面も同じ様にすすめるのではなく、このように読み方を教えていくのはいいと思います。今回、ごんが物知りだということをおさえたいという意図に基づいています。時には、学習者が話し合って結論をまとめていくというのがあってもいいと思います。

4 人物像を考えるときに、根拠となる部分に線を引いて考えたり、話し合ったりしてきましたが、ネーミングをするととても楽しく有効であると感じました。

5 身につけさせたい技術（ネーミング、発問が明確）がはっきりしていたが、2年前、京都大会で行った授業と似ている。ちがう授業も見なかった。発問し、数をしばって見つけさせる技術は多くの子どもが参加出来る有効な方法である。

7 知覚した物から人物の心情（人物像）を把握する技術は有効だと思います。しかし、心情描写をとらえることは難しいと思います。

8 授業が早く進みすぎて何をやっているのかが分からないときがあった。もう少しゆっくりやってほしい。

9 場面の一部分からごんがどのようなきつねか、その人物像を考えさせるという授業でした。語を獲得し、増やすという言語技術につながると思います。ごんの人物像を考えさせるとすれば、この部分でなくてもよいのかなと思いました。しかし、指導案をよく読んでいくと前半と後半でごんの人物像の変化が見られることからこの部分にされたのかなと思いました。

10 知覚物、ネーミングから登場人物の心情や人物像が明らかになるという提案はよかった。ただ、本時で扱った「〇〇ぎつね」（物知りぎつね、観察ぎつね）というネーミングはこの物語全体の中で必要があるかどうか疑問でした。これに対して、「いたずらぎつね」「つぐない（をする）ぎつね」というネーミングの活動は人物像の変化をとらえるためには大切なものであると思います。

11 知覚物、ネーミングの技法が特に印象的だった。教師主導型であった。子どもの思いから授業を進めていきたい。「おちこみぎつね」→先生は賛同されなかったが、最後の会話文からそれも窺える。

12 発問が明確。やることがよくわかる。五つ、線を引き数をふる、などです。授業展開がスムーズ。知覚した物を探す活動が、その後の「〇〇ぎつね」（心情）を書く活動とうまくつながっている。「ネーミング」の良さが伝わってきた。

13 知覚物から人物像を読み取るという提案はすばらしいが、どのように人物像に結びつくかが不明瞭だった。黒板に「行動」「見たもの」「考えたこと」など分けて書くと視覚的により深く理解できるのでは。また、文のどこからどこまででごんを〇〇ぎつねと表すのかよく分からなかった。

14 文章表現に戻って考えていること、当然と

言える、当然ですがよかったですと思います。それぞれの〇〇ぎつねの根拠と総意が検討されると……。そうすれば、ネーミングの良さもより実感できたのでは。何のために読んでいるのか、「学習者の必然」がつかめませんでした。

15 以前、“どんなきつね”ということ子ども達に考えさせる授業をしました。子ども達が生き生きとどの子も授業に参加したことを覚えています。様々な手法で授業をしましたが、大変有効な技術と思っています。

16 知覚物が人物の心情を考える手立てになると、〇〇ぎつねとネーミングすることでも人物像が浮き彫りになることがわかった。知覚物を短い言葉でまとめるのが難しい（人か物かどちらかしばるのが難しかった）のが知覚物の課題だし、ネーミングはどうしてそう付けたかの根拠を問うことが大切だと思った。

17 「知覚語から人物像をとらえる」「ネーミング」など様々な技法を学ぶことができた。

18 意図が伝わりました。

19 ネーミングから読み取る、やってみたい。

21 テンポ良く授業が展開されており、子どもが集中して参加できさうだと思った。事前の深い教材研究によってこのような授業を自分も展開したいと思った。事務局の方が黒板をすぐに消してしまったのが残念。

22 ネーミング（名付け）が人物像を表現する言語技術はよいと思った。根拠を示して説明させるなどの学習活動が必要。描写の意味を理解するための技術をとらえた。知覚したものを探すことは心情理解のためではなく、情景を映像としてイメージする力を育成するための技術であろうと思われる。

23 去年は、たくさん音読をしました。質問の仕方が分かり易く、本文より抜き出せました。

24 ネーミングという技術は参考になりました。「〇〇ぎつね」と名づける→どこからどこまでの範囲を読んで名づけるのか、模擬授業を受けている人に伝わっていなかったために、いろいろと岩下先生の意図以外の考えが出てきてしまったのではないのでしょうか？範囲を四角で囲ませるなどの工夫が必要だと思いました。

25 外のかまどが葬式と関連していることを初めて知りました。「知覚物」への着目の仕方に気付かされました。

26 ごんがそう式と推理したポイントに目を向けさせる活動は興味深かった。線を引くポイントが漫然としていたように思う。一斉読みにど

のような意義があるのか。

27 「〇〇ぎつねを考える」というのは思考の活性化にはとてもよいと思います。1~10まででたものをこの後どのようにするつもりであったのか。発問や子どもへの指示等くわしく見たかった。

28 この場面の前半のみでこんなによみとれるなんてびっくりしました。また、葬式の決め手になる言葉が全く分かっていない自分を発見しました。普段、読み落としていた所なので、ていねいな読み取りの大切さを学ばせていただきました。ありがとうございました。

29 2場面 で 叙述 を 読ませるのであれば、前半の「葬式だ」と思った根拠を考えさせるよりも、それをやらずに後半のみとして兵十のおっかあが「うなぎが食べたい」と思った根拠を考えさせることであろう。でなければ、教材の本質に迫れない。(ここでこそ、ごんに対する「想像ぎつね」「観察ぎつね」「推理ぎつね」「おりこうぎつね」はとらえられる。) 叙述の把握から人物像のネーミングという流れはすばらしい。

31 登場人物が知覚したものから心情の解釈は自然な流れだと思いましたが、話者が知覚したものと登場人物が知覚したものの違いは確認しておかないといけないと思いました。

32 練り上げの場面を更に拝見したかったです。

34 ネーミングをすると人物象がうかびあがるというのは、よい手法と思ったが、本時の前半、ごんが知覚したものから人物像をつかむのは難しいと思いました。

35 ネーミング法はおもしろいと思いますが、最後に選ばせるときの理由付けが本義なのですが、それをさばくときの教師の腕に相当な力量が要求されると思いました。

36 ごんが知覚した事実から「葬式」と判断するまでの根拠について問う課題はおもしろい。描写の学習をするのに分かりやすい。「〇〇ぎつね」というネーミングを考える課題は、文章全体を見通す際に見出しの言葉となってくるのでとても効果的。次の場面の学習にも活用できる。

37 「〇〇ぎつね」というのをぜひやってみたいです。すべての場面でやってもおもしろいかなと思いました。

43 発問の中で「そう式だ」と思ったところを五つ見つけるというのは、具体的でこのように聞けばよいのだとよくわかった。その前に、「あ

あ、そう式だ」という文に線を引くのも、技術だと感じた。「〇〇ぎつね」のネーミングは授業中何回くらい行うのか知りたかったが、検討の時に分かりました。検討会で岩下先生が神田支部の指導案を見たとおっしゃったのを聞き、岩下先生もそうやって追求されていたのだと感銘を受けた。神田支部の指導案を詳しく見たいと思った。

(2) 授業Ⅳ (授業者: 佐藤康子)

1 「～のところから…と考えました。」(描写にそった自分の考えを話せるようになる。)
「前の人の～…」(発言をよく聞く子が育つ。)
「ふみふみ」という表現からいろいろな発想がでてきたが、根拠のない想像になってしまう可能性もあるが、それでよいか?(性格とは言えないかもしれないが、他の子はそう考えているということを知ること。) 時間を長くかけ過ぎていたので、詳細な読み取りに近い。解釈したことを表現読みするのは難しい。「なあ」を付けない場合の言葉のニュアンスについて考えたのはおもしろかった。

2 児童役の子ども達が二度、三度、発言していて、それでもまだ5分あまりがあった。教員が何をするのか指示していながらも子どもに考え、意見を言う時間がたっぷりあった。教師の発言ーポイントを絞り児童に時間を渡し、学習内容を深めていた。基調提案ⅠⅡⅢに直接関わる授業になっていた。「前の発言に加えて」「～と違って」など大切。「そうかな、そうかなあ」「ふみふみ」「ふみながら」の比較。

3 言語技術のとらえ方がすごく幅広いということがわかりました。

4 登場人物の心情や変化を読み取る時に、思いが出ている言葉や語句から考えていくと、とても考えやすいと思いました。

5 気持ち重視の授業をあえて行う理由は何か。評価はどうするか。

8 発表のしかたを示したり児童が受けやすい環境になっていたのも、頭に内容がよく入ってきた。また、他の人の意見からどう思ったのか聞いていて、他の人の意見も取り入れることができた。

9 「兵十のかげぼうしをふみふみ」というところからごんの心情を探るという授業でした。「ふみながら」と「ふみふみ」の比較は面白いなと思いました。また、自分はこう読み取ったからその読みを反映させて、こう音読するとい

うところはやはり読み取れていないと具体的な形として出てこないなと思いました。

10 子ども役の発言をよく促してよかったが、各自の解釈（「ふみふみいきました」のところ）を述べ合うばかりだったので、その解釈の適否について考えたり、よりふさわしい解釈はどれかと収れん（収束）する場面が必要であると思う。何を根拠に解釈の適否を決めるのか、またどうやって決めるのかを明らかにするための言語技術はどうあるべきか示してくれるとよかった。

11 大変感動した。教師の教材解釈から一文であそこまでより多様で深い読みができたことに驚きとともに、今まで気づかなかったことに気づけて大変参考になった。

12 友達同士の意見をうまくつないで授業されているところがすばらしかったです。授業を受けていて楽しかったです。先生の授業展開ならどんなに学習が低位の子どもでも楽しく参加出来ます。

13 「ふみふみ行く」から心情を読み取ることが可能なか疑問。根拠を明確にできるところだと一文前の「ふたりの話をきこうと思って」のところを問うべきでは、と感じた。また、流れが強引なところがあって先生の中にある答えを言わないといけない雰囲気だった。全く引き込まれなかった。

14 「ふみふみ」という言葉にこだわることで、学習者達の「ごん」、「ごんと兵十」のイメージが文脈の中でふくらんだような気がしました。ただ、発言の型、枠をはめる必要があったのでは？でした。

15 “言葉を大切にする”今、自分が大切にしていることです。佐藤先生の授業には、追求する姿勢とあたたかさ、情熱がありました。多分、佐藤先生、多くの引き出しを持っていると思いました。だからこそ、自信あふれた授業になっていると思います。

16 「〇〇さん、発表です、次は△△さんに言ってもらいますよ。」と発表をつなげる点や発表をよく聞き、類似点や相違点を明確にして話し合わせる点が参考になった。「ふみふみ」を「ふみながら」に置き換えるとどう感じるか考えさせた点もいい発問のしかただと思った。

17 意見の引き出し方がすばらしいと思った。

18 マイクを使えるとよかったです。発表のさせ方が分かり易かった。

19 教員の教材観の深さが光っていた。

20 ごんの気持ちの理解をする学習の価値についてまとめがあるとよかったです。

21 授業のめあてに見事にせまっていく進め方であり、とても参考になった。4年生を担当する機会に恵まれたら、ぜひ追試したいと思う。板書も分かり易い。発表の仕方もルールが明確に示されており、学習環境の面からも勉強になる模擬授業であった。

22 登場人物の行動描写から心情を深める発問であった。生徒役の考えが深まる(?)につれ表現から離れ、推測の詳細な読みになっていくことが、物語を読む技術として一般化できるか疑問である。旧態依然としていて、読者の人生体験をもとにした読みであった。本学会の多様な考えがあることが著しく現れた授業提案だと思った。学会の意義について考えさせられた。

23 昨年も先生のごんぎつねを勉強させて頂いた。声に出す・発表するのはとても大切だと思いました。先生の生徒への語りかけ、指示みんなすばらしいです。とても勉強になりました。

24 板書の使い方がとても上手だと感じました。「ふみふみ」に注目させてごんの兵十に対する“想い”と、それが“片想い”であったことに「ひきあわないなあ」とショックを受ける場面を採り上げての授業、とても重要な場面であることを改めて認識することができました。

25 「ふみふみ」を徹底的に議論することに驚きました。子どもの考えを引き出す技術を勉強できました。

26 「ふみふみ」に注目させたのは興味深かった。「ふみふみ」だけでは心情を捉えきれないように思う。前後の文脈をしっかりと確認した上で行いたい活動だと思う。

27 ①意見の切り返し、「他の子はどう思う?」「どうしてそう思ったの?」理由を言わせることがもっと必要。→叙述に戻って考える。「ふみふみ」から心情を考えさせるのは唐突だと思うが、自由すぎる解釈になってしまわないか。

②傍観者でいる時間が多く、思考・表現する時間をもっと取りたい。ノート記述、どうなるんだろう? 先生が張り切っていて、子どもはおいてけぼりにならないか…うちのクラスでは難しいやり方だった。考えるワクワク感、考える必要性を感じることができない。

28 前の人の話を受けて話すように「前の人と似ていて」と子どもの意見をつなぐ言葉かけがうまいなあと感心しました。また、文末の「な」

「なあ」がないだけで、こんなに感情がこもらないんだとびっくりしました。新しい学びでした。授業の姿が見えるすてきな模擬授業でした。ありがとうございました。

29 「兵十のかげぼうしをふみふみ」という叙述から気持ちを想像させるよりも、「5場面では4場面より兵十のことが好きになっています」と気持ちを限定してこの叙述を探させる方が発達段階に適していよう。目的はごんの兵十に対する気持ちの変容をとらえることであるから、言語技術はその目的に即して抽出すべきである。会長提案のⅠⅡの技術が見えてこない。Ⅲの技術のみよく分かる授業であった。

31 学習者は活発に意見を言っていました。言葉の検討や根拠があいまいになって言語技術については深まらなかったと思いました。

33 指導案から…“初発の感想を讀みの課題として読み進める”という進め方が素晴らしいと思いました。どうしても毎回指導書に書かれていることがらを指導しようとしてしまったりするので、子ども達が学びたいこと、考えたいことをやっていくことが大事なのだと思いました。また、音読に関して、何を目的に読むのかを考えて読ませることが大事だと分かりました。今後の指導に生かしたいと思います。

34 「兵十がかげぼうしをふみふみ行きました。」の一文だけでこんなにごんの気持ちをふくらませられるのかと思いました。

35 オーソドックスな授業であり、佐藤先生のお人柄が前面に出た授業でした。ただ、もう少し抽象度を上げることが必要ではないか。

36 もう少しごんの心情を考えるのに時間をかけずにできないものかと考える。(指導計画が8時間では、読み通すまでに全体像がぼやけてしまう)ごんの心情の変化に焦点を絞って授業を進めた方が児童には分かり易い授業になると思う。

37 一番授業らしかったです。「ごんぎつね」で身につける技術を見せて欲しいです。

38 児童の意見を上手に引き出し教師のねらいとするところに自然ともっていく手法がすばらしかったです。できそうでできないのですが、そこが授業にとって大事なところだと思います。康子先生の授業は「もっと話したい！」と思わせる言葉がけや雰囲気があり、それによってより考えが深まっていきます。また、より多くの児童に発表させるように投げかけ、最後に全員が自分の考えを発表する機会があったこと

はすばらしかったです。人数が多いと必ずしも全員参加が保障されないのですが、こういう手法をとることで最後にまとめや確認が一人一人できると思います。勉強になりました。ありがとうございました。

39 「ふみふみ」というキーワードに着目させ、ごんの思いに迫っていくという手法は、学習者が考えやすいものであると実感しました。また、「ふみふみ」を抜いた場合の表現との比較を入れて考えるきっかけを与えることも賛同できました。言葉、表現の細部や違いから登場人物の心情に迫っていき、表現読みで確かめ振り返る(そして、子どもに納得させる)という流し方は、教師として安心でき、納得しながら参観することができました。ありがとうございました。

43 どうしてその2箇所かと思った。佐藤先生だからできる授業なのかと思った。2時間の授業を見たかった。

(3) 提案授業の検討

(司会：長谷川祥子、授業者：岩下修・佐藤康子、登壇者：小森茂・鶴田清司・望月善次・照井孝司・富樫忠宏浩・中村孝一)

1 授業の一部を見て、全体の言語技術を語るのはとても難しい。各研究団体の考えている、又は個人で考えている言語技術は何か、一覧表にまとめて提案して比較してみたいと感じた。北海道支部は学習用語を学年別に提示、茨城支部はⅠⅡⅢの言語技術についての具体案の提示、神田支部は指導過程、指導事項の提示などがあると分かり易いと思う。

2 鶴田先生のような分析がこの学会で求められる検討である。照井先生、富樫先生もポイントを絞って検討下さっていた。言語技術教育に集約される検討が行われていて、討論全体に好感が持てた。最後の長谷川先生のまとめがありがたかった。

3 言語技術のとらえ方がすごく幅広いということが分かりました。

5 教室で使えるという視点で、時間を区切って話題にして頂き、勉強になった。気持ちを問いつ過ぎると抽象度が上がり答えにくいので、発問を工夫するという中村先生の説明に一番納得した。

8 有意義な時間でした。

9 野口先生の最後の発言「この言語技術を使ったらどんなことができるように(向上した)なったのか、それが不明だった。」というのが、

伺っていてスッキリしたように思います。「これはいい」「これはよくない」教師の側としてしっかり解を持って授業に臨むということが大切であり、授業のさばき方も大切なのだと改めて考えさせられました。

11 午前と同様、歯切れ良く大変いい意見が聞けてよかった。

12 お二人ともとてもわかりやすい授業だったので午前と比べて討議がよくかみ合いました。富樫先生の「名人芸ではだめ」というお考えは、とてもよく分かりました。技術がその先生だけのものなのか、他の先生も使うことのできるものなのか、検討する価値があると思う。

13 鶴田先生のおっしゃった「教育技術」という言葉がしっくりきました。(岩下先生の授業)もっと子どもが活発になる、笑顔になる、読解が深まる手立てがないと、つまらない国語の授業になってしまう。提案には、技術を向上させるだけでなく、楽しい面白いという心情面も意識してほしい。

14 望月氏が主張されていた全体の枠組み「何のための言語技術なのか」、授業を成立させる学習用語が身につけばいいのか、失礼を顧みずにいえば盛り上がればいいのか、発言できればいいのかという問いだと私は考えました。

15 望月先生の話、なるほどと思いました。“提案授業の検討”今回は何をねらって位置づけているかがより明確になっていけば、さらに充実したものになっていくと思います。登壇者は、“授業づくり”ということをおぼろげに忘れているのではないかと思います。文学者ではないのです。参加者は自分が受け持っている子ども達にどういう力をつけさせていくのか、そして楽しい(分かる)授業をやっていききたいという思いで参加している者がほとんどだと思います。

16 万能な技術は存在するのか。技術なのか方法なのか、言語技術なのか、授業技術なのか、検討会を聞いて余計に分らなくなった。基調提案の「言語技術Ⅰ」だけが言語技術でⅡやⅢは授業技術や教材解釈のための手立てではないか。

17 検討会を聞いていて大変勉強になった。

18 わからない子のために言語技術が助けになるということが分かった。

19 大変参考になった。

20 ごんぎつねの授業で具体的に改善すべき点を挙げていただけると有難かったです。

21 研究している方が多い教材だけあって、深

い話し合いになっており、気付きの多い検討会であった。参加して良かったと思う。

22 司会者が議論を深める指名などすばらしい運営でした。中村孝一氏の根拠の指摘で深まった。司会のまとめもすばらしかった。

24 活発に意見が出され、とてもよかった。フロアからもたくさん意見が出されてよかったです。司会進行がとてもよかった。

25 様々な形の言語技術があること、それをどう教えるか、主体は誰なのか、など考えれば考えるほど難しいと思いました。

26 フロアで野口先生がおっしゃっていたことはまさしくその通りだと思う。それなりに読める児童文学に教師が介入するからには、学びがいのある授業をしていきたい。

29 登壇者多すぎ。鶴田・望月の提案は深く、今後の学校で考えていくべきものである。今、学会は言語技術についてカテゴライズされず上位下位概念もないまま論じられている。大内基調提案に即して体系化・カテゴライズすべきであろう。

31 お互いに少し遠慮されていて論点が少しぼけていたような気がした。

32 鶴田先生の授業解説が分かり易かったです。こちら登壇者が多すぎて、司会が司会ではなく、進行者になっています。岩下先生、鶴田先生のご意見にある限定した中での「言語技術」の議論を望みます。野口先生の厳しいご意見も賛成です。

34 自分が大切にしたいことをもっておそれず物を言うことの大切さを感じました。

35 前半「ごんぎつね」の指導を通して、児童にどんな言語技術を教えるのかという観点で検討がされていて分かりやすかった。しかし、具体的にどんな言語技術が習得できるかという点については、不明瞭なまま終わってしまった点は残念である。

37 鶴田先生、望月先生のご意見に賛成でした。読み取る技術にしばって授業提案をしてほしいです。

43 朝の基調提案とからめて話される先生が多かった。深まった。特に、中村先生の話は他の作品の読み方も示されていて、言語技術の指導として有効だと感じた。

【Ⅲ 日程・会場・運営について】

1 良いと思います。都内で行うことが出来て

良かった。今回理事に推薦された井上善弘先生が国士舘大学（町田・世田谷）なので、使用させて頂けると、また東京大会が開けると思います。

2 先生方がよく動き、会の運営をサポートしていた。お疲れ様でした。ありがとうございます。

5 ゆったりとした広い会場で楽しく学べた。

9 ありがとうございます。マイクが少々聞き取りにくいところがあったのが残念におもいました。

10 たいへん立派な会場で研究会を行うことができよかった。運営に当たられた事務局の皆様へ感謝します。マイクの感度、使用法については事前の再確認があるとよかった。

11 適当であった。

12 マイクが聞き取りづらかったです。すばらしい学びの機会を与えて頂きありがとうございました。

13 遠方から来たので 9:40~というのがありがたく、始発で間に合いました。

14 便利でよかったと思います。マイクの不具合が残念でした。ご準備お疲れ様でした。

15 遠方より新幹線で来ました。土曜日の休日に勉強したいという気持ちで安くない旅費で来た者にとって、会の最中に子どもの声が入るのがとても残念でした。会員であっても会にはお子さんをいれて参加しないということは、しっかりと確認して下さい、また授業者にも失礼に当たります。

16 マイクの調子が悪く聞きにくかった点が少し残念でした。エアコンがあり研修しやすかったです。ありがとうございました。

18 毎年、関東、東海当たりで実施してほしいです。できるだけ、JR の近くで。

19 涼しくてよかった。

20 マイクのハウリングがとても気になり、大事な部分のメモができませんでした。次回は改善してほしいと思います。

21 会場は便利で良かった。日程も夏季休業期間中で良い。小さな子どもの声が気になる。対応を検討し、子どもを連れて来ざるを得ない参加者が安心できるようにしてほしい。

24 85教室は黒板・壇上があり、広さもとても広くて良かったと思います。

25 趣のある校舎でした。

26 昼食に関して食堂が閉まっていたのは残念だった。公の場で開催するのなら、予め把握して

いてほしい。

28 日程、良かったです。会場、良かったです。運営、良かったです。が、「座席は先着順」とあったので、7時に来ていましたが、生徒席は選べませんでした。しくしく、それだけが少し残念です。でも、学習の場を与えて頂いた事に感謝しています。ありがとうございました。

29 すばらしい事前準備を含めて運営された方々に深く感謝する。

31 マイクが聞こえにくかったです。

34 少し寒かったです。

35 模擬授業をするには大変やりづらい席でした。授業の検討に登壇者が多すぎ集約しきれない。

37 会場が東京でしかも交通の便のよい（JR利用）場所であったのでありがたかった。

37 同じ教材を二人の先生が別の視点（別の技術）で見せてくれるとより勉強になると思いました。4500円は少し高いです。

42 午後、提案授業の授業者の声が十分に聞こえず残念だった。

【IV この大会をどこで知りましたか。該当する箇所に○を付けて下さい。（複数回答・可）

1 学会事務局通信	1 5 7 12 20 25 32 35
2 案内やチラシ	2 8 9 23 27 31 37 43
3 雑誌や新聞の広告	15 17
4 インターネット	4 10 11 13 14 16 18 19 21 26 27 28 29 30 32 34 35 36 39 40 43
5 地人の紹介 (含その他)	24 33 36 38 39 42

【V その他】

2 ありがとうございます。

3 初めて参加させて頂きました。実力のある先生方の模擬授業は大変参考になりました。検討も面白かったです。

4 ありがとうございます。

5 同一教材で2人以上授業を行う時、時数をそろえる（今回もほぼ同じ）とよいと思った。紀要に指導案（全時間）載せて頂けると後々調べやすくありがたい。

- 15 ごんぎつね、小学4年の時に国語の授業で学びあまりの結末に大きらいな物語でした。教師になっても子ども達に主題を考えさせる場面が私自身好きではありませんでした。(今もです) ごんぎつねを語る国語科好きな教師とは一線をひいていました。いただいた要項の大内先生の提案、とても嬉しくなりました。
- 18 マイクの不調が残念でした。
- 20 全時間の授業案のある方とない方がいらっしやいました。全時間のものを全員お示し頂きたいです。
- 23 昨年に続いて参加させて頂きました。
- 24 授業ⅠとⅡは同じ考えの提案授業であったので、違う考えの提案を行うように、授業者を選んだ方がよいと思いました。
- 26 ありがとうございます。
- 30 国語以外の言語技術、あるいは他教科での言語技術の使われ方も検討してほしい。
- 31 もっと資料があればと思いました。学会でするのでそれぞれの先生方の一年間の実践や研究のまとめなどがあれば、それぞれの先生方の立場が理解できたと思いました。
- 37 秋に4年生でごんぎつねを教えるので今日学んだ事を生かしていきたいです。
- 43 小森先生の原稿がなかったが、文書で示されてお考えがわかった。全時間の指導案を二人の先生が示して下さり、今後やってみようと思う時に使えると思った。自分もこのようにやってみたい。